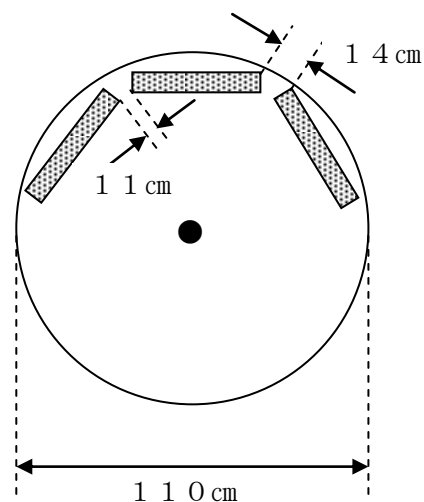
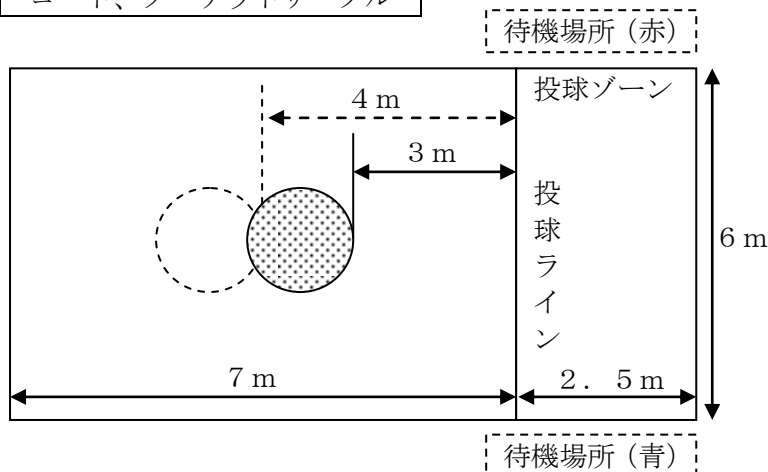


用具

1. ボッチャボール（赤 6 個、青 6 個、ターゲットボール白 1 個 マイボール制とする）
2. 専用ターゲットサークル（直径 110 cm の人工芝製、ボール止めとして $4 \times 4 \times 30$ cm の角材を内側 11 cm、外側 14 cm の間隔で 3 本取り付ける）
3. ターゲットボールをターゲットサークルの中央にテープで固定する。競技中にずれてしまった場合は、中央に戻す。

コート、ターゲットサークル



プレイヤー

4. 1 チーム 3 名以上とする。
5. 1 チーム 2 名以下の場合は、相手チームの不戦勝とする。ただし、両チーム合意の上、試合を行うことはできる。
6. 中学部スポーツ大会の他の競技との併用出場はできない。

試合

7. キャプテンのじゃんけんで先攻後攻を決める。
8. 1 セット目の先攻が赤ボール、後攻が青ボールとなり、2 セットとも同じ色のボールを投げる。
9. 2 セット目は、先攻後攻をチェンジして行う。
10. 投球ゾーンには、投球者のみが入ることができる。次投球者は、ゾーン外の待機場所で待つ。
11. 投球ゾーン内であれば、どこから投球してもよい。
12. 1 セット目のサークルは、投球ラインから 3 m 離れた位置に設置する。2 セット目は、4 m 離れた位置に設置する。
13. 主審からボールの色のコールがあってから投げるができる。コールの前に投球した場合は、すべてやり直しとなる。
14. 投球は、30 秒以内を目安に行う。
15. 投球者は、投球ラインを踏んだり、越えたりして投球してはならない。
16. 投球者が投球ラインを踏んだり、越えたりして投球した場合、1 回目は警告、2 回目以降は無効球となる。この場合の 2 回目は、チーム全体に対するものとする。
17. 赤と青が交互に投球し、6 球投げ終わったら 1 セット終了。2 セットの合計得点で勝敗を決める。
18. サークル内にボールが入ると 1 点。1 セット終了時点でターゲットボールにより近いチームに 1 点加算される。測定距離が同じ場合は、両チームに 1 点ずつ加算される。
19. 投球されたボールは、サークルにのった場合のみ得点となる。触れているだけでは、得点にならない。
20. 1 セット中、一人が投球できる回数は 2 回までとする。
21. 2 セット終了して同点の場合は、代表者 1 名（自力投球者）により、3 m の位置から延長戦を行う。延長戦は、1 セット目の先攻（赤）から投球し、サークル内に入らなくてもターゲットボールにより近い方が勝ちとなる。同距離の場合は、再度同じ代表者が投球する。

補助具

22. 補助具の先端が投球ラインより前に出てはならない。
23. 補助具ありのブロックでは、1セット中1回は補助具を使用しなければならない。
24. 補助具にボールをセットする時に投球ゾーン内に落ちてしまった場合は、やり直しとなる。ただし、投球ラインより前に落ちた場合は、有効とする。
25. 補助具をセットし投球動作に入った後は、補助具を動かしてはいけない。

コーチ

26. コーチは、投球のコーチ（必要人数）とコート内コーチ（1名）とする。
27. 投球のコーチは、試合をスムーズに進行するため、選手の移動やボールの受け渡し等の行為ができる。（次投球者の準備をすみやかに行う。）
28. コーチは、必要に応じて投球者を支援することができるが、過度な支援は審判に判断により、警告や無効球となる。
29. 審判に対する抗議は、監督（1名のコーチ）のみが行うことができる。ただし、審判の判定には必ず従わなければならない。